

大里農林 振興センターだより

March.2024 No.17

(株)和ナチュラルテイストの
ねぎドレッシング

新鮮な深谷ねぎをたっぷり并使用し、甘さと食感、
香りを生かすため加熱しないで作った、食べる生
ドレッシング。Made in SAITAMA 優良
加工食品大賞2024を受賞しました。

結果はこちら▶



野菜をいただきます。



発行
埼玉県大里農林振興センター

管理部/農業支援部
農村整備部

🏠 埼玉県熊谷市久保島1373-1
🏠 埼玉県深谷市上野台244-2

☎ 048-523-2812 / 048-526-2210
☎ 048-571-2241 (代表)



埼玉の「美味しい」をみなさまに ～県産農産物サポート店～



New!

そらのおかし

🏠 深谷市岡2655-5 📞 070-8965-6011

旬の農産物を使ったこだわりのロールケーキ

埼玉県では、県産農産物を手軽に購入していただけるよう、また、県産農産物を利用した食品や料理を召し上がっていただけるよう、それらを積極的に取り扱っている小売店、飲食店、卸売業者、食品製造業者を「県産農産物サポート店」として登録し、県産農産物のPR・消費拡大に取り組んでいます。

県内では2,740店舗、熊谷市・深谷市・寄居町では316店舗のサポート店が県産農産物の販売や加工品・調理品・飲食メニュー等を提供しています。県産農産物サポート店は、埼玉農産物ポータルサイト「SAITAMAわっしょい!」で紹介していますので、是非ご覧ください。

また、サポート店の登録は随時受け付けていますので、概ね年間を通じて県産農産物を積極的に利用する販売事業者の皆様は、是非お問い合わせください。

📱 埼玉農産物ポータルサイト

SAITAMAわっしょい!



report

地域農業の将来設計図『地域計画』の作成 ～熊谷市玉井地区からの報告～

令和5年4月に施行された改正農業経営基盤強化促進法により、市街化区域を除くすべての農地を対象に、地域農業の将来像を示す「地域計画」を令和7年3月までに作成することとなっています。地域計画は、地域の農業者、農協、土地改良区、市町、農業委員会、県が話し合い、誰がどの農地を利用していくのかを一筆ごとに決めていくものです。

◆先行モデル地区：熊谷市玉井地区の状況

玉井地区では、昨年8月からこれまでに3回の話し合いが開催され、多くの方にご参加いただいています。話し合いの場では、地域の担い手を中心に、地域農業の課題や対応案を整理し、5年後・10年後の農地利用等について検討を進めてきました。

本年1月の話し合いでは、玉井地区の農地地図を囲んで、担い手に託したい農地、自ら耕作したい農地、効率的な農地利用など、地域の農地活用のイメージを共有しました。

次回は3月に開催を予定しており、農地中間管理事業の活用等を含めた総まとめを行います。玉井地区以外でも、こうした地域での話し合いを行っています。

地域農業の将来の設計図である地域計画の作成に向け、地域での話し合いへのご参加・ご協力をお願いします。



写真上下：熊谷市玉井地区の
地域計画の話し合いの様子

PICK UP

令和5年度 土地改良事業地区等 営農推進功労者表彰 を受賞しました



受賞
おめでとうございます！

写真下：国営かんがい排水事業『荒川中部地区』
深谷市大谷 小林 孝之氏（小林花卉 代表）

◆◆◆◆◆ ご紹介 ◆◆◆◆◆

小林氏は、深谷市大谷地区で鉢花・花苗を生産しています。土地改良事業で揚水機場を整備したことを契機に、国営荒川中部用水に切り替え、適切な水管理を行い花きの品質が向上したこと、独自ブランドの展開や品種改良で他社商品と差別化したこと、電照・シェード栽培技術を確立し周年出荷を実現したことで従業員の通年雇用を確保したことなどが評価されました。

営農推進功労者表彰とは

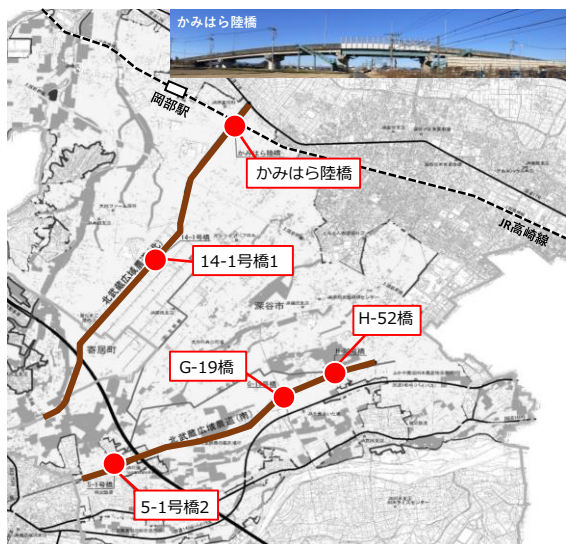
関東管内の国営・県営土地改良事業実施地区で、農業生産技術の向上と経営改善のための創意工夫を意欲的に行い、他の模範となり、事業の推進等に功績のあった方々を表彰する制度です。

?

Information

県営事業の紹介 ～農道整備事業(保全対策型)北武蔵地区が完了します～

北武蔵広域農道は、深谷市と寄居町にまたがる全長14.2kmの道路です。ほ場整備事業により区画整理された優良農地間を結ぶ幹線道路として整備され、別名「花植木街道」と呼ばれています。
この農道にある5つの橋梁は造成から40年が経過し老朽化が進むとともに、耐震性が不足していたため、県営事業で耐震補強と補修を行いました。



位置図

◆事業の概要

上記5つの橋梁は、老朽化による伸縮装置の劣化などに加え、耐震性が現在の基準に満たない状況でした。

大地震が発生した際には農業車両の通行や農産物の流通に支障を来す可能性がありました。

このため、農業車両の安全な通行と農産物の流通経路を確保し、地域農業の安定化を図るため、橋梁の耐震補強及び補修工事を令和元年度から事業着手し令和5年度に完了します。

受益面積：3,708ha（田1,005ha 畑2,703ha）

総事業費：671,820千円

事業期間：令和元年度～令和5年度（予定）

事業量：橋梁耐震補強補修工5橋

トマト生育調査のすゝめ

近年の異常気象により気温が乱高下し、農作物の栽培管理がより一層難しくなる中、トマトの施設栽培では生育調査を行う生産者が増加しています。生育調査を行うことで、今現在のトマトの生育状態を把握することができ、適切な状態に近づけるために改善すべき栽培管理のポイントがわかります。今回は生育調査の一連の流れについて簡単にご紹介いたします。

◆STEP 1 茎径と開花花房高の測定

●5～10株の調査を行う株を決める

施設の中央付近などなるべく環境が安定している場所を選び、調査株には印を付けておきましょう。

●茎径を測定

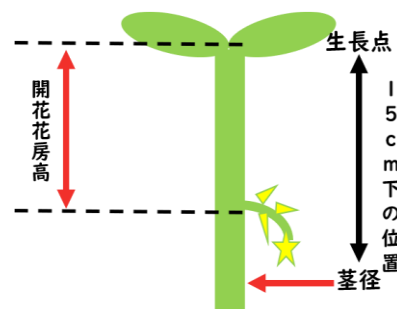
茎径は生長点から15cm下の茎の太さのことです。茎の形は楕円形ですので、茎径を測定するときは短径の長さを測定しましょう。

●開花花房高を測定

開花花房高は生長点から最も近い花房までの長さのことで、開いている花が一～二つの花房までの長さを測定しましょう。また、開花花房高は必ずしも最初に決めた株を測定するとは限らず、調査を行う株の周辺の株の中から最適な花房を見つける必要があります。

●調査は1週間に1回の間隔で行う

継続して調査を行うことでトマトの生育状態がどのように変化したのかがわかります。また、人によって感覚が異なるため、調査はなるべく同じ人が行うようにしましょう。

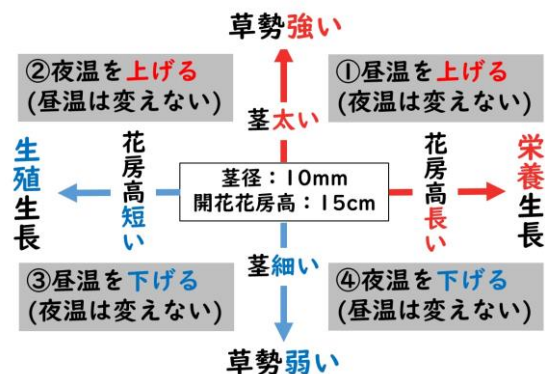


◆STEP 2 測定結果に基づく栽培環境改善

測定結果から、今現在のトマトの生育状態がわかります。大玉トマトでは茎径10mm程度、開花花房高15cm程度が適切なバランスの状態とされています。よりバランスの良い状態に近づけるために栽培環境の改善に取り組みましょう。

トマトの草勢は施設内の平均気温に左右され、平均気温が高ければ草勢は弱く、低ければ強くなります。

また、栄養成長か生殖成長かは施設内の温度の日較差（昼温と夜温の差）に左右されます。日較差が大きければ生殖成長、小さければ栄養成長に傾きます。トマトは温度による影響が大きいため、温度管理を変えることで生育をコントロールしましょう。



茎ゲージを使ってみませんか？

茎ゲージとは茎径をより簡易的に測定するために、かながわスマート農業普及推進研究会が開発した測定器具のことです。

生長点から15cm下の部分に茎ゲージの溝を当てはめるだけで茎径を測定する事ができます。メジャーやノギスよりも茎を傷つけにくく、手軽に持ち運びやすい大きさとなっています。

大里農林振興センターでは生育調査に興味のある生産者の方に茎ゲージを配布しておりますので、少しでも興味のある方は当センターまでご連絡ください。

